

2020年9月27日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

イザヤ書 4 : 2~6

ルカによる福音書 10 : 17~20

「名が天に書き記されている」

<帰って来た 72 人>

前回の聖書は、イエスさまが 72 人を任命し、ご自分がこれから行こうとしておられる町や村に遣わされた、という所の御言葉を聞きました。

そしてこの箇所は、2000 年前の、当時の 72 人だけに語られていることではなくて、その後、この福音書を書いたルカの時代の教会の人々、そして今現代の教会、わたしたちに向けても語られている、ということでした。わたしたちもまた、イエスさまに招かれて、イエスさまに従う者とされて、イエスさまに遣わされていきます。今日もわたしたちは、今この教会に向けて、ここにいるわたしたちに向けて語られていることとして、共に御言葉を聞きたいと思います。

さて、遣わされた 72 人は「神の国が近づいた」と宣べ伝えました。それは、「神さまが遣わされた救い主、イエスさまが来られた。神さまの恵みのご支配が、この方によって始まった。十字架と復活と昇天の御業がなされ、すべての人の罪の赦しが実現する。死に勝利され、信じる者に永遠の命と復活の約束が与えられる。この方を受け入れ、信じなさい。この方を迎え入れ、この方と共に生きる者となりなさい。」ということです。

そして今日のところでは、72 人は伝道の旅を終えて、「喜んで帰って来て、こう言った」とあります。「主よ、お名前を使うと、悪霊さえもわたしたちに屈服します。」

彼らが神の国、神のご支配を告げるところでは、悪霊、つまり人々を苦しませ、悩ませるあらゆる力を退けることが出来た、ということです。

「お名前を使うと」とありますが、これはイエスさまのお名前を呪文みたいに唱えると悪霊が退散する、ということではありません。イエスさまのお名前、というのは、イエスさまご自身がそこにおられる、ということです。

つまり、弟子たちがイエスさまの名前を呼び、祈り求めるところで、神さまの支配を告げるところで、人を支配していた悪霊が屈服するのです。弟子たちを通してイエスさまご自身が、その神の力によって働いて下さり、人を苦しみ、悪霊から解放し、恵みのご支配によって生かして下さる、ということです。

なぜそのようなことが 72 人に出来たのでしょうか。それは、19 節でイエスさまが「蛇やさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を、わたしはあなたがたに授けた。」と言っておられます。

つまり 72 人は、遣わされる時にイエスさまから、イエスさまの権威、お力を授かっていた。イエスさまに依り頼み、祈り求める時に、イエスさまがその力を現わして下さる。肉体的には目の前にいて、一緒に行動して下さるのではないけれども、遣わして下さったイエスさまは神の力によって常に弟子たちと共にいて、イエスさまご自身が働いて下さる。72 人はその約束の許に遣わされていた、ということです。

そうして、実際に 72 人が、神のご支配、イエスさまの救いの恵みによるご支配を告げるところで、悪霊がイエスさまのお名前に屈服する。イエスさまが御力を現わして下さり、人々を苦しめ、悩ませる力を支配して下さる。このようなことが、起こっていたのです。

<イエスさまの御業によって実現すること>

この喜びの報告を聞いて、イエスさまは言われました。「わたしは、サタンが稲妻のように天から落ちるのを見ていた。」

サタン、というのは、苦しみや悩みを与える悪霊のボスみたいなものです。聖書においては、神に敵対する者、人から神の恵みを失わせようとする力のことを示しています。これが、天から落ちた。つまり、サタンは人々を支配する力を失った、ということです。

どうしてサタンは力を失ったのでしょうか。それは、イエスさまが罪と死に打ち勝って、天に昇られ、神の恵みによってすべてを支配する方となられるからです。

今日の聖書の箇所の時点では、イエスさまはこれからエルサレムへ向かい、十字架で死なれ、復活し、天に昇られます。しかし、この福音書の著者であるルカは、すでにそのことが成し遂げられたことを知っている教会に向けて、わたしたちに向けて、今日の所を語ろうとしています。ですから、イエスさまが救いを実現して下さり、すべてをご支配なさって、サタンは力を失うのだ、ということ述べているのです。

イエスさまのご支配の下で、サタンはその力を振るう場所がありません。人々に働いて、神さまから離れさせようとする力、神さまに背かせ、神さまに敵対させようとする力。その力にイエスさまは打ち勝って下さり、わたしたちの罪を赦し、神さまの許へ招き、神さまに従う者、神さまと共に生きる者として下さるのです。

このイエスさまに遣わされ、このイエスさまの力に依り頼むからこそ、72 人は神の国、神のご支配を宣べ伝え、悪霊の力を退け、その驚くべき喜びの体験に与ることが出来たのです。そしてわたしたち教会もまた、神の国を告げ知らせるところで、イエスさまの救いの恵みが宣べ伝えられるところで、イエスさまによって人々が苦しみ悩みから解放されること、癒しや慰めが与えられる喜びを目撃していくのです。

<本当の喜び>

弟子たちは、わたしたちは、この勝利されたイエスさまの下で、ご支配の下で、神の国を告げるために遣わされて行きます。だから、イエスさまは「あなたがたに害を加えるものは何一つない」と言われました。

ところが、イエスさまは「しかし」と続けられるのです。「しかし、悪霊があなたがたに服従するからといって、喜んではいけません。」

イエスさまのご支配を告げ、悪霊がイエスさまの名に屈し、人々が解放される。一人の人が、神さまのご支配にある、まことの恵み、まことの自由に生き始める。それは素晴らしいことであり、喜びに違いありません。伝道の業が前進していく。救われる人が興されていく。そして、その神さまの御業に用いられていることの喜び。神さまの御業を目撃する喜び。これは大変大きな喜びです。

しかしイエスさまは、そこを喜びの中心にするなどと言われます。もっと見つめるべき喜びがある。もっと大切にすべき、忘れてはならない喜びがある。そのことをこそ、喜びなさいと言われるのです。

それは、「あなたがたの名が天に書き記されている」ということです。天にわたしの名がある。神さまの国の戸籍に、わたしの名前が登録されている。神の国の国民とされており、そのことが神さまによって保証されている。イエスさまは、これこそ、あなたがたが喜ぶべきことだ、と仰るのです。

神さまの力によって、イエスさまの名によって、地上で与えられる喜び、楽しみは多くあります。それは大きな恵みであり、大切に、感謝して受け止めて良いことです。しかし、地上で与えられる喜びが、わたしたちの救いを保証しているわけではありません。伝道が成功したから、教会のためにたくさん役に立てたから、人々のために良いことをたくさんしたから、わたしたちが天の国に入ることができたり、神の民とされるのではないのです。

むしろ地上で行なう業は、神さまに従って懸命になそうとしたことでも、失敗に見えたり、上手くいかなかったり、そのことで苦しんだり、傷つけられたりすることだってあるかも知れません。目に見える成果や、心が躍るような喜びは、何も得られないかも知れません。

イエスさまの十二使徒たちも、イエスさまが十字架の死から復活され、天に昇られた後、たくさんの人々に福音を宣べ伝えました。そして教会が立てられ、全世界に救いが広がっていきました。しかし一方で彼らは迫害に遭い、苦しめられ、罵られ、殺されていったのです。

「害を加えるものは何一つない。」本当にそうだったのでしょうか。彼らはイエスさまに従うゆえに、多くの苦しみや悩みを味わい、害を受けたのではないのでしょうか。

一見、サタンが支配しているのではないか。悪霊は相変わらず、わたしたちを屈服させ、苦しみや悲しみを与えているのではないか。世の現実、世における歩みを見つめる中では、そう思ってしまうようなこともあるのです。

しかし、イエスさまは言われます。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」喜びは地上の目に見えることにあるのではない。悪霊があなたがたに服従したこと、その出来事は、あなたの存在や命、救いに関わる喜びではない。あなたが、確かに神さまのものとされている。あなたの名が、天にしっかりと書き記されている。わたしの十字架

の死によって、あなたの罪が赦され、わたしの復活に連なって、あなたも永遠の命と復活の恵みに入れられている。そのことを喜びなさい。イエスさまはそう仰るのです。

わたしが、イエスさまの十字架の罪の赦しに預かり、永遠の命と復活の約束を信じるならば。たしかにわたしの命も、体も、魂もすべて神さまのものとされて、天に名が記され、神の国民とされているならば。

わたしが地上の信仰の歩みの中で、苦しみにあっても、つまずきにあっても。何かを成し遂げられなくても、失敗したとしても。病になっても、体が弱ってしまっても、たとえ死を目前にしても。あるいは、赦されたにも関わらず、繰り返し罪を犯してしまったとしても。もはや、わたしを神さまから引き離すものは何もないのです。イエスさまの救いの恵みは、取り消されることはありません。神さまの恵みが、もうわたしたちを離しません。

イエスさまが「あなたがたに害を加える者は何一つない」と言って下さった。サタンはイエスさまによって、力を失ったのです。どれだけわたしたちが罪に傾いてしまっても、倒れてしまっても、うずくまってしまっても、すべてを支配しておられるイエスさまが、わたしを立てて下さる。イエスさまが、わたしをすべてから守って下さるのです。

この者はわたしが十字架で代わりに罪を背負い、すでに赦された者だ。この者はわたしの復活の命を与えられ、永遠の命と復活の約束を受けた者だ。この者は、わたしのものであり、地上においても、天においても、わたしと共に生きる者だ。そうイエスさまが、宣言して下さるのです。

ここに、本当の喜びがあります。サタンも、地上の何ものも、死ですらも奪うことのできない、喜びがあります。地上に起こることでわたしたちが体験する喜びは、失ったり、消えてしまったりします。しかし、このイエスさまによって与えられる喜びは、何があっても失われません。揺らぐことも、倒れることもないのです。

そして、終わりの日に、このイエスさまが再び来られ、すべてを完成させて下さいます。わたしたちも復活に与り、この目でイエスさまに見え、神の国、神のご支配が、サタンへの勝利が、罪の赦しが、復活の命が、完全に現される時が来るのです。

わたしたちは、このイエスさまに救われている。この方のものとされている。この方によって、神さまの御許に、天に名が書き記されている。わたしの名が、神さまのもとにある。それは、わたし自身がもうすでに今、神さまと共にある、ということです。この喜びをいつも見つめていきたいのです。

そして、イエスさまはこの喜びを世界中の人々に、すべての人々に与えようとしておられます。だから、わたしたちは今日またこの喜びに立ち帰り、この喜びを伝えるために、イエスさまの名によって、それぞれの場所へ遣わされていくのです。

【お祈り】

天の父なる神さま

あなたがお遣わし下さった御子イエスさまが、十字架と復活の御業を成し遂げ、天に上げられたことによって、わたしたちを罪と死から解放し、すべての支配者となられ、恵みのご支配に招いて下さったこと、わたしたちの名を天に書き記して下さったことを、心から感謝いたします。

この大きな恵みに与りながら、わたしたちは、世のことばかりを見つめています。喜びに、苦しみに、試練に、また自分の罪に、一喜一憂し、心が振り回されています。

しかし、どのような時にも変わる事のない、神さまの恵みに捕らえられていることを覚えさせて下さい。わたしたちの名が天に書き記されている、神さまがわたしたちをご自分のものとして下さっている、その大きな恵みが、わたしたちの人生を、日々を、命を支えて下さっていることを、まことの喜びとすることが出来ますように。

その喜びの中で、与えられた一日一日の務めを、イエスさまが共にいて下さる日々の歩みを、感謝をもって、誠実に、謙虚に歩いていくことが出来ますように。

イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン